

◆ 平群町公共交通のあり方について

■平成22年以前の町内公共交通の状況

平成22年以前の平群町内公共交通：NCバス・あいバス(南部ルート・西山間ルート)
課題 ①公共交通空白地の存在(バス停から300m圏域外) ②小学校再編による通学への対応 ③国道168号バイパス沿道への店舗・医療施設の立地



■町内公共交通の役割・機能・具体策

交通手段	役割・機能	具体策	連携計画実施事項
路線バス	地域内定時輸送	－	NCバス(変更なし：継続運行)
コミバス	地域内定時輸送(公共交通空白地域)	運行ルート・ダイヤ見直し	西山間ルート延伸(東山駅) 中央循環ルート新設 (旧南ルート+BPルート)
タクシー	個別輸送・末端集落支援、特定目的支援	福祉タクシー活用 乗合タクシー導入 子育てタクシー活用	継続検討



■平成23年度からの運行経緯

	評価基準:人/年    ( ):人/便					利用状況 (H24 年度)	運行見直し等
		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度		
西山間ルート	目標基準	14,300 (9.8)	14,600 (10.0)	14,900 (10.2)	15,200 (10.4)	13,465 人/年度 ※最低基準は達成 目標基準の達成率は約 92%	継続 (園児・小・中通学支援)
	最低基準	10,000 (6.9 人/便)					
中央循環ルート	目標基準	29,300 (8.6)	31,300 (9.2)	33,400 (9.8)	35,400 (10.4)	15,581 人/年度 ※最低基準の達成率は約 86% 目標基準の達成率は約 50%	H25.11～運行見直し 北・南ルートに分離 土・日祝日運行停止
	最低基準	18,200 (5.3 人/便)					



	利用状況(H25年度)	課題等	利用状況 (H25年度)
西山間ルート	13,998人/年度	一般利用者の促進 (利用者：小学生多)	13,998人/年度 ※最低基準は達成 目標基準の達成率は約94%
中央循環ルート	14,864人/年度	利用促進	14,864人/年度 ※最低基準の達成率は約82% 目標基準の達成率は約45%

■平群町公共交通の運行手法見直し検討条件

平群町の公共交通見直し検討として、以下の4ケースについて比較検討を行った。

- ① コミバス3路線継続運行＋N Cバス
- ② 西山間・南をコミバス＋全域デマンドタクシー運行＋N Cバス
- ③ 西山間をコミバス＋全域デマンドタクシー運行＋N Cバス
- ④ 全域デマンドタクシー運行＋N Cバス

1. 平群町内の公共交通（バス）需要

上記、公共交通見直し検討ケースにおける各交通機関の需要設定にあたっては、下表のコミバスの実績値（平成25年4月～平成26年3月）及びN Cバスの実績値から試算する。

なお、小学生以下の児童が、単独で乗合（相乗り）タクシーに乗車することは禁止されていることから、コミバス利用者数から西山間ルートの通学利用者数は控除した。

よって、本検討にあたっては、西山間ルートでコミバスを運行しない案では公共交通利用対象者数19,402人/年をコミバスとデマンドタクシーで按分する。

表 現行の公共交通利用者数

路 線		年間利用者数(人/年)
中央循環 ルート	北	5,112
	南	8,705
西山間 ルート	全数	13,998
	内,小学生	8,413
合 計		27,815
N Cバス		219,000

※西山間ルート：通学利用分を控除



※北・南ルート：H25.11～H26.6利用者数から按分

図 検討対象者数(コミバス＋デマンドタクシー利用者数)

2. デマンド導入による既存公共交通からの転換者数

デマンド交通の導入により、N Cバス・コミバス利用者のデマンド交通への転換が想定される。

転換者数は、今年度実施した町内4駅での利用実態調査結果（8:00～18:00の駅乗降客調査）から、移動困難者数(歩行に支障のある高齢者,障害者,妊婦,ベビーカー等)が全乗降者数に対し、約2.0%となっていることから、その割合をN Cバス・コミバスからデマンド交通への転換者数とした。

3. 各ケースの交通機関の利用者数

公共交通見直し検討の各ケースの交通機関の利用者数を以下のように設定した。

- ①平群町公共交通全利用者数（246,815人/年）を固定する。
- ②コミバス3ルート案利用者数（27,815人/年）を固定する。
- ③デマンド交通利用者数  
デマンド交通利用者数 ＝ コミバス廃止ルートの現行利用者＋移動困難者  
※西山間：5,585人/年、北：5112人/年、南：8,705人/年
- ④移動困難数（約2.0%）をN Cバス、コミバスから減ずる。

表 各ケースの交通機関別利用者数

ケース	公共交通		利用者数 (人/年)	移動困難者 2.0% (人/年)	想定利用者数 (人/年)
①	N Cバス		219,000	—	219,000
	コミバス	3路線	27,815	—	27,815
	合計				246,815
②	N Cバス		219,000	4,380	214,620
	デマンド	全域		—	9,779
	コミバス	西山間	5,585	112	5,473
		小学生	8,413		8,413
		南	8,705	175	8,530
	デマンド＋コミバス 計				32,195
	合計				246,815
③	N Cバス		219,000	4,380	214,620
	デマンド	全域		—	18,309
	コミバス	西山間	5,585	112	5,473
		小学生	8,413		8,413
	デマンド＋コミバス 計				32,195
	合計				246,815
④	N Cバス		219,000	4,380	214,620
	デマンド	全域		—	23,782
	デマンド＋コミバス 計				23,782
	小学生	西山間	8,413		8,413
	合計				246,815

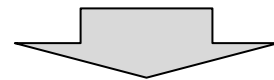
■平群町公共交通の運行手法見直し比較検討

		① 案コミバス（3路線運行）		② 案コミバス+デマンドタクシー（1）		③ 案コミバス+デマンドタクシー（2）		④ 案全地域デマンドタクシー	
主 旨		・ 3ルートをコミバスで運行		・ 全地域をデマンド交通(セグン型タクシー)で運行 ・ 通学、一般需要が多い西山間・南はコミバスも運行		・ 全地域をデマンド交通(セグン型タクシー)で運行 ・ 通学利用に必要な西山間はコミバスも運行		・ 全地域をデマンド交通(セグン型タクシー)で運行	
イメージ図									
運賃	比較ケース			②-1	②-2	③-1	③-2	④-1	④-2
	NCバス	189円		189円	189円	189円	189円	189円	189円
	コミバス	100円(小学生50円)		100円(小学生50円)	100円(小学生50円)	100円(小学生50円)	100円(小学生50円)	—	—
	デマンド	—		300円	500円	300円	500円	300円	500円
利用者数	NCバス	219,000人/年		214,620人/年					
	コミバス	全ルート	27,815人/年	西山間ルート	13,886人/年	西山間ルート	13,886人/日	(西山間・小学生：8,413人/日)	
	南ルート			8,530人/年					
	デマンド	—		9,779人/年		18,309人/日		23,782人/日	
合 計	246,815人/年		246,815人/年	246,815人/年	246,815人/年	246,815人/年	246,815人/年	246,815人/年	
車両運行台数	コミバス	3 台/日		2台/日（マイクロ）		1台/日（マイクロ）		—	
	デマンド	—		2台/日（タクシー）		4台/日（タクシー）		5台/日（タクシー）	
経 費①		3,193万円		3,540万円	3,540万円	3,691万円	3,691万円	3,214万円	3,214万円
収 入②		257万円		475万円	671万円	646万円	1,012万円	713万円	1,189万円
NCバス減収③		—		83万円	83万円	83万円	83万円	83万円	83万円
通学・通園支援費④		—		400万円	400万円	800万円	800万円	1,200万円	1,200万円
町予算額 ⑤		2,936万円		3,548万円	3,352万円	3,928万円	3,562万円	3,784万円	3,308万円
課 題 等		・ 中央循環ルートが最低目標にも達しないことから、利用促進対策が必要。 ・ 通園、通学の足は確保できる。 ・ 町外者利用が容易なことから観光支援に寄与する。		・ 現行より町予算額が増加する。(約 400～600 万円)		・ 現行より町予算額が増加する。(約 600～1000 万円)		・ 現行より町予算額が増加する。(約 300～800 万円)	
				・ 北ルート地区について通学・通園支援が必要。		・ 北、南ルート地区について通学・通園支援が必要。		・ 全ルート地区について通学・通園支援が必要。	
				・ 事前登録のため、町外者の利用がしづらくなることから、コミバスが運行していない地区においては観光支援等ができなくなる。 ・ 狭いタクシー空間での相乗りや、近隣者による行動監視を懸念して、デマンドタクシーを利用しないことが懸念される。(事例あり) ・ 利用にあたり事前予約を必要するため利用者に煩わしさが生じることから、利用者減少も懸念される。 ・ 事前予約のオペレータ、経路検索システム等が必要(初期投資+維持費)となる。 ・ デマンド運行経費とは別に事務処理費用（町補助申請手続他）が発生することが懸念される。					
総 合 評 価		・ ②案は町予算額が現行より増加（約 400～600 万円）するうえ、コミバス運行ルート以外の地区では町外利用がしづらく観光支援等に寄与しないことから、望ましくないと判断した。 ・ ③案は町予算額が現行より増加（約 600～1,000 万円）するうえ、コミバス運行ルート以外の地区では町外利用がしづらく観光支援等に寄与しないことから、望ましくないと判断した。 ・ ④案は町予算額が現行より増加（約 300～800 万円）するうえ、コミバス運行ルート以外の地区では町外利用がしづらく観光支援等に寄与しないことから、望ましくないと判断した。 ・ よって、利用者低迷、補助費用額の高止まり等の課題はあるが、通園・通学・町外利用者支援、時間需要変動への対応等に優れることから①案が望ましいと判断した。(但し、需要拡大に向けた利用促進施策「運行ダイヤ見直し等」は必要)							

## ■平群町公共交通のあり方についてのまとめ

現行のコミバス利用者の利便性確保、通園・通学支援を条件として、コミバス、デマンドタクシー及びN Cバスによる平群町公共交通のあり方について比較検討を行った結果、以下のことから**コミバス3ルート（西山間・北・南）運行の継続**が望ましい。

- ① デマンドタクシーでは小学生以下の児童が単独で利用できないこと（保護者同伴）から、デマンドタクシーのみの運行地区では通学・通園支援が別途必要となる。（1地区あたり約400万円）
- ② 通学・通園支援費を含めると、町予算額はデマンドタクシー導入案では全て現行のコミバス運行案を上回ることになる。（増加額：約300～1,000万円）
- ③ デマンドタクシー運行により、N Cバスの収入が年約83万円減少することが懸念される。
- ④ デマンドタクシーは利用者が増加するとともに町予算額も増加する傾向にある。
- ⑤ デマンドタクシーのみ運行地区では町外の人が利用しづらいことから、ハイキング等の町外からの観光支援等に寄与しない。



### ●平群町公共交通の目的

1. 町民の健康維持にはたらきかける公共交通を提供する。
2. 通学・通園支援を通じて、世代を越えた交流に寄与する公共交通を提供する。
3. 町外者が利用することで、観光支援等の地域活性化にも寄与する公共交通を提供する。

### 移動困難者への対応

既定の福祉タクシーや、福祉有償運送の利用促進をはかるとともに、利用条件の緩和等について、必要に応じて検討する。